



冬の使者オオワシ (知床国立公園) (4) 押し寄せる流氷、国後島を望む(知床国立公園)(5)

COLUMN

季節を告げる渡り鳥

日本人は古くから、渡り鳥の渡来によって季節の訪れ を敏感に感じとってきました。晩秋になるとマガモやハク チョウが北方から渡ってきて日本で冬を過ごし、春になる と北に帰っていきます。ツバメやサシバなどのような、初 夏に南から渡ってきて夏の日本で子育てをする鳥たちやシ ギ・チドリ類のように春と秋、渡りの途中で日本を通過す る鳥たちもあります。

国立公園はこうした 渡り鳥など野生動物 の生息地としても大 変重要な役割を担っ ています。

屈斜路湖上のオオハクチョウ (阿寒摩周国立公園)



(写真:森田敏隆)

